

Kaien への訪問調査：全国に拠点をもつ就労移行支援事業所

柄真賀 透¹末吉 彩香²田中 敦士³藤野 友紀⁴

要 旨

就労移行支援事業所「株式会社 Kaien」を訪問し、事業所の概要や活動内容、さらには発達障害の方が仕事に就くまでの取り組み等について、聞き取り調査を実施した。具体的な取り組みとして、発達障害のある人たちの事業所内での就労実践、就職するまでに抱える諸問題、関係機関や他企業との連携等の具体的な説明を受けた。ここでは発達障害のある方がさまざまな業務を体験する中で、自身の苦手な部分や得意な部分を確認し、自身の強みや特性を活かした仕事で活躍できるような支援を行っていることが印象的であった。

本学でも発達障害をはじめ他の障害を抱えた学生が近年増加傾向にある。今後、株式会社 Kaien の先進的な取り組みを参考にしながら、本学の「発達障害のある学生への教育支援事業」を充実させていきたいと考える。

キーワード：発達障害、修学支援、就職支援、仕事力、体験型プログラム

1. はじめに

発達障害のある人たちは就職する際に、コミュニケーションがうまくいかない、どんな仕事に向いているのかわからないなど、多くの課題に直面している。本学も発達障害を抱えた学生が増加傾向にあり、卒業後の進路で戸惑う学生が増えてきた。卒業後の進路に向けてどんな取り組みが必要不可欠なのかを学ぶために、発達障害学生への教育支援事業を実施している株式会社 Kaien（以下、Kaien）の情報を入手し、本学教員3名で視察した。

Kaien は発達障害学生や発達障害者の自立支援に向けた多様な取り組みを実践し、多くの発達障害学生・者を社会に送り出している。今回の視察では就労移行支援というサービスを受けながら、発達障害学生・者をどのような働きかけで就労させているのか、学び得

たものを報告する。

2. 事業概要

Kaien は、発達障害のある人が強み・特性を活かした仕事に就き、活躍することを応援するプロフェッショナルファームとして2009年9月に設立した。設立当初3名だった訓練生も現在（2019年5月現在）では、大阪1拠点を含め全8拠点で200名の方が通所し、1000名を超える方が就職・定着している。また、ライフステージに応じたサポートを目指し、就労移行支援だけでなく、生活訓練（自立訓練）を目指して10代向けの放課後デイサービス「TEENS」、学生向けのガクプロのサービスを展開している（Kaien, 2019a）。

Kaien のサポート方針は以下の通りである。

(1) あなたの目線で

普通を求め過ぎず、あなたの違いをしっかりと理解し、

(2) 楽しく、前向きに

はたらく面白さを感じられる空間づくり、

(3) あなたのペースで、

早すぎず遅すぎず、あなたにちょうどよい速さで、

(4) あなたの強みを

違いを引き立たせ、企業に必要とされる強みを、

¹ 札幌学院大学 人文学部人間科学科；
tochi13@sgu.ac.jp

² 株式会社 Kaien；sysueyoshi@kaien-lab.com

³ 札幌学院大学 人文学部人間科学科；
atanaka@sgu.ac.jp

⁴ 札幌学院大学 人文学部人間科学科；
fujino@sgu.ac.jp

(5)いつまでも仲間として

就職後も、発達障害の魅力を伝える仲間として。

3. 活動内容

就労移行支援での職業訓練は、様々なプログラムを経験することを通して、利用者が自身の得意不得意を体感し、把握することで、自分の強み・特性を活かした仕事に就くための準備をする環境を提供している。大きくは3つのプログラムに分けられる。(1)人事・経理・総務などのオフィス実務を経験する事務作業プログラム、(2)中古の子供服、おもちゃ、本といった商品の販売過程を一連の流れとして体験できるオンライン店舗運営プログラム、(3)パンフレットや「Decobo通信」(Kaienで発行している機関紙)を編集、デザイン、印刷、発送するプログラムの取り組みなどがある。

4. 個性を見つけて向き合うプログラム

Kaienでは、職務スキルだけでなく、どこの職場でも必要となる基本スキルを身につけることを前提に、次のようなプログラムを設定し、実施している。

(Kaien, 2019b)

(1)凸凹講座

大人数でのレクチャーや、テキストをもとにした訓練だけでなく、クイズやゲームをふんだんに利用している。利用者一人ひとりの特徴を分析し、楽しみながら苦手な分野(コミュニケーション、集中力、段取り、マナーなど)への対策を行えるように工夫している。

(2)動画・確認テスト

就職活動への知識やPCスキルを身につけながら、就活スキルを伸ばしている。例えば動画や確認テストを使って、就職への準備を整えることが可能である。利用者のみが視聴できるオリジナル動画が300を超える。無料アカウントを発行するので、自宅での学習も可能である。

(3)職業訓練

発達・精神障害のある方への求人としては、最も求人数の多い事務関連のスキルを習得できる「OA事務コース」、IT・デザイン・マーケティングスキルが学べる「クリエイティブコース」、軽作業を習得し特性に配慮がある職場を目指す「特例子会社コース」の3コースで、最大100種類の仕事が体験できる。

(4)独自の求人

利用者本人が努力しても、職場の理解や上司に恵まれないとせっかくの準備が水の泡となる。Kaienでは150社を超える企業と連携し、利用者の強みや個性を活かし、弱みへの配慮をしてくれる職場を紹介している。

5. 自分の得意・不得意を知る

Kaienの職業訓練は「発達障害に特化した体験型プログラム」で、30種類以上の仕事に対応している。これは、数千名の発達障害の方々の就業や就職活動の経験談をもとに作り上げた独自プログラムである。レクチャーだけでなく、様々な仕事を体験していく中で、自身の適職を理解しながら、仕事に関するスキルを身につけることができる。

例えば、「事務作業」では、テープ起こし(聴覚情報の記憶容量が試される)、「軽作業」では、配送物の「検品作業」や「ピッキング」など、倉庫から商品を運搬する作業がある。

6. 一日の流れ

就労移行支援者の一日の流れは、以下の通りである。

Kaienは午前9時15分までに出勤し、タイムカードを押してから一日が始まる。朝会・作業計画を確認し、職業訓練がスタートする。個別対応として、面接練習やビジネススキルなども実施している。昼食時には、食事を取ることは勿論であるが、雑談を練習するランチミーティングも開催している。13時から午後職業訓練が開始され、15時15分に終礼、帰宅となる。

訓練生が職業訓練を実施するなかで、随時キャリアカウンセリング(30分)を並行して行い、就活の資料として活用している。

7. 利用から就職までの流れ

毎週、見学・利用説明会を開催している。内容はプログラムや支援方針についての説明が中心である。また一人ひとりを把握するために、個別面談・体験セッションも実施している。体験セッションでは実際にプログラムを体験し、就職・仕事への希望や不安を伺い、支援方針を提案している。利用者はKaienの活動内容を理解した上で、受給者証を申請し、利用がスタートする仕組みになっている。

就労移行支援の利用開始後は、日々前述のような

様々なプログラムを通して就職の準備に取り組む。また、利用中はスタッフがキャリアカウンセリングを実施し、一人ひとりに伴走するようにサポートしている。

就職後は、就労定着支援事業を実施し、最大3年半まで継続的に行っている。定期的な個別相談のほか、キャリアアップに向けたグループワークへも参加可能である。さらに就職した企業の人事や現場担当者へのフィードバックなど、利用者が長期間、安定して就労し続けるために大きな役割を担っている。

8. 就職状況と主な進路先

就職実績は、過去6年間で1000名を超え、1事業所で30名以上が就職・定着している職場もある。就職後の1年間の定着率は95%以上であり、全国でもトップレベルである（全国平均は70%未満）。求人は独自求人が多く、150社以上あり、発達障害に理解のある職場に就職も可能である。未経験職種への就職実績も多数あり、専門性の高い職種へも数多く就職している。

就職先企業として、ANA ウィングス株式会社、日本 IBM 株式会社、アクサ生命保険株式会社、株式会社パナソニック、株式会社大京などが挙げられる。

9. 就職者の事例紹介

A 男さん（24歳、軽度発達障害、学習障害、高卒）

〈Kaien の取り組み〉

- ・ 就労移行支援を10ヶ月利用。
- ・ 多様な訓練の中で手先の器用さ、美術センスの良さを発見。
- ・ A 男さんの特性を事前説明、スムーズに職場に親しむ。

⇒ 就職（舞台演出会社、障害枠、月給15万）

〈Kaien 利用時からの経過〉

高校卒業後も一人で就活したものの失敗続きでイライラが爆発。見かねた家族が Kaien に繋いだのが20歳の時でした。Kaien 利用後も PC の苦手さや読字障害でマニュアルを読めないことなど、自分のできない部分だけに気をとられていました。しかし手先の器用さを活かすようにスタッフが誘導。職業訓練の中で製本・備品整頓で抜群の成果を残すことで気持ちに余裕ができ、当初使えなかった敬語も自然に出るようになりました。ほぼ毎日していた遅刻については「働いた後の夢」を明確にするカウンセリングによって行動の動機づけをして克服。その後、「人生で初と言える成

功体験」（本人談）という実習を経て内定しました。現在も就業継続し、今春、正社員になりました。（Kaien, 2019）

10. 視察で学び得たこと

今回の視察で学び得たことは以下の通りである。

- (1) 長く働ける環境に就職できるような支援。当社は「発達障害、仕事、強みを活かす」をキーワードにサービスを提供している。
- (2) 様々な業務を体験して自分の得意・不得意を知る。発達障害に特化した体験型プログラムで30種類以上の仕事に対応できる。
- (3) 職業訓練の中で自分の特性と対処法を把握する。毎日の訓練の中で自分の特性とそれに対する対処法を把握し、就職活動を本格化する。
- (4) 発達障害に特化した求人を独自に開拓して紹介する。求人リストは常時100件以上、関連企業は数百社にまで広がり、雇入れ経験が豊富な会社が多数あることなどが挙げられる。

11. 今後、本学で実現可能なこと

今回の視察を通して、本学の障害者支援で実現可能なことは、以下の3点である。

- (1) 社会自立のための START プログラムの実施。内容については、セルフマネジメント領域（マネジメント能力の向上）、自己・他者理解領域（折り合う能力の向上）、社会的枠組み・手続きの理解領域（常識・ルール・社会的制度の利用）をプログラム化する。
- (2) 特例子会社への見学、職場実習、職場定着支援。発達障害と診断されている学生には、大学在籍時から実施し卒業年次での就職を目指す。
- (3) 発達障害に特化した求人を独自開拓。職業安定所、障害者職業センター等関係機関との連携が必要不可欠である。

12. おわりに

Kaien は発達障害学生や発達障害者の自立支援に向けた先進的な取り組みから、多くの発達障害学生・者を社会に送り出していることに重要な示唆を得ることができた。

本学でも発達障害をはじめ他の障害を抱えた学生が近年増加傾向にあり、今回視察した Kaien の教育支援

の取り組みを参考にしながら、本学の「発達障害のある学生への教育支援事業」を検討していきたいと考える。本学が日本学生支援機構による「障害学生修学ネットワーク」の拠点校として、しっかり根付くよう、教職員・学生が同じ目線に立ち、障害者（発達障害等）の自立支援ネットワークを拡げていくことが今後の課題である。

参考文献

- [1] Kaien (2015). Decobo 通信 7 (1) 「10代の発達障害を考える」, Kaien.
- [2] Kaien (2018). 発達障害の人の「私たちの就活」発達障害者の自立・就労を支援する本③, 河出書房新社, 東京.
- [3] Kaien (2019a). 大人の発達障害の方への支援「あなたの中に眠っている仕事力」Kaien が一緒に探します, Kaien.
- [4] Kaien (2019b). 大人の発達障害「就職は無理…と思う人に来てほしい！支援力の Kaien」, Kaien.

Study and Employment Support for Students with Developmental Disabilities: Employment Support of Kaien Inc.

Toru TOCHIMAKA¹, Ayaka SUEYOSHI², Atsushi TANAKA³ and Yuki FUJINO⁴

Abstract

We visited Kaien Inc., an employment transition support office, and conducted interviews about the office overall, activities, and initiatives for ensuring the employment of persons with developmental disabilities. The interviewees gave specific explanations that included best working practices for offices with employees with developmental disabilities, the various problems people with developmental disabilities face in finding employment, and the office's collaboration with related organizations and other companies. What was impressive was that when people with developmental disabilities performed various tasks, their weaknesses and strengths were identified and support was provided so that they could play an active role at work, making use of their strengths and special qualities. In recent years, the number of students with developmental disabilities and other disorders has been increasing, even at our university. In the future, we would like to enhance this university's "Project for Educational Support for Students with Developmental Disabilities" by referring to the advanced initiatives of Kaien Inc.

Keywords: Developmental Disability, Employment Support, Experience-Based Program, Study Support, Work Power.

¹Department of Human Sciences, Sapporo Gakuin University; tochi13@sgu.ac.jp.

²Kaien Co.,Ltd.; sysueyoshi@kaien-lab.com.

³Department of Human Sciences, Sapporo Gakuin University; atanaka@sgu.ac.jp.

⁴Department of Human Sciences, Sapporo Gakuin University; fujino@sgu.ac.jp.

